

令和7年度 第2回 部活動の地域移行に関する協議会 意見交換概要

1 日 時 令和7年12月24日（水）14時00分～16時00分

2 場 所 大津合同庁舎7階7A会議室

3 次 第

① 開 会

② 報告事項

・事務局より報告

（1）国の示す「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」についての説明

（2）「滋賀県中学校部活動改革推進計画骨子（案）」について

③ 意見交換

● 滋賀県中学校部活動改革推進計画骨子案について

1. 改革の方向性とスケジュールに関する意見

【地域展開の目標設定】

○ 「休日は原則全ての部活動で地域展開の実現を目指す」という記述について、非常に分かりにくいとの指摘がありました。また、令和13年度というゴール設定が「課題の先送り」になり、「13年度末までに何とかすればいい」という発動にならないよう、早期に取り組めることから進めるべきである。

【少子化予測の妥当性】

○ 計画案にある「10年で2割減少」という予測に対し、現場の実感としてはもっと激しく減少するのではないか。

【「地域連携」の表記】

○ 方針に「地域連携を中心とした」と書くと、各市町が「地域展開」を意識しにくくなる可能性があるため、表現を工夫すべきとの提案があった。

2. 地域クラブ活動の「認定制度」に関する意見

【責任の所在と安全確保】

○ 地域クラブで熱中症や落雷などの重大事故が起きた際の損害賠償責任について、数億円規模の補償に対応できる保険がない現状では、地域団体が引き受けるのは不可能である。

○ いじめが発生した際の責任体制（学校のような組織図）が不明確である点も問題である。

【大会運営】

○ 現在は教員が担っている大会運営を、地域移行後に誰がどのように担うのか、チャンピオンスポーツを継続するのかを含めた検討が必要である。

3. 「教育的意義」の継承に関する意見

【定義の不明確さ】

○ 計画案に「教育的意義を継承する」とあるが、その具体的な内容や検証方法が示されていない。

【理念の矛盾】

○ 教育的意義を継承すると言いながら、活動を学校から切り離して地域クラブ化すること自体が矛盾しているのではないか、という懸念が示された。

4. 指導者確保と学校の負担に関する意見

【学校の新たな負担】

- 地域クラブとの連携を密にするほど、夜間の会議や調整業務など、結果として教員の負担が増えるのではないかという懸念が示された。

【人材確保の地域格差】

- 「人材バンク」などの仕組みがあっても、小規模な町では部活動指導員を探し出すこと自体が極めて困難であり、一律の計画では対応できない。

5. 種目特性や地域の実情に関する意見

【文化部（吹奏楽）の困難】

- 楽器の運搬、指導者の謝礼、騒音問題による練習場所の確保など、文化部特有の課題があり、学校外での活動は「ほぼ不可能に近い」

【広域連携の物理的限界】

- 山間地などでは隣接校との距離が数十キロに及ぶこともあり、合同チームの結成や広域連携は物理的に無理がある。

【学校の自律的運営案】

- 既存の地域移行モデルにこだわらず、義務教育学校化して児童会・生徒会が自律的にクラブを運営し、市がそれを補助するような仕組みも視野に入れるべき。

④ その他

○次回協議会 2月頃

それ以外でも、国からの発信によってご意見をいただく機会を持つこともある

⑤ 閉会